

福德岡ノ場

○概況（平成 17 年 7 月）

2 日から 3 日にかけて小規模な海底噴火があり、活動が活発になりました。その後、噴火はおさまりましたが、変色水がたびたび観測されるなど、やや活発な状態が続きました。

○噴火及び変色水の状況

海上自衛隊によると、2 日 17 時 45 分頃から福德岡ノ場で白色噴煙が目撃され、同日 19 時過ぎに行った調査で、海面から高さ約 1,000m に達する白色噴煙と、海面上の幅 100m、長さ 300m 程度の範囲に噴火によると思われる浮遊物が確認されました。

3 日に海上自衛隊及び海上保安庁が上空から行った調査では、白色噴煙の高さが低くなるなど噴火活動は次第に低下しました。4 日及び 5 日の上空からの調査（4 日は海上保安庁と東京工業大学、5 日は海上保安庁と気象庁が共同で実施）では噴煙は見られず、3 日までの噴火の浮遊物と変色水が確認される程度に収まっていた。その後、15 日に海上自衛隊、17、20、21 日に海上保安庁が上空から行った観測では、変色水は観測されましたが、浮遊物等は認められませんでした。

20～22 日に海上保安庁が無人測量船「マンボウⅡ」で海底地形調査を行った結果、今回の噴火で生じたとみられる 2 つの火口と、これらの火口のすぐ南側の地形の高まりが新たに発見されました。詳細は、海上保安庁海洋情報部のホームページ(<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>)を参照ください。



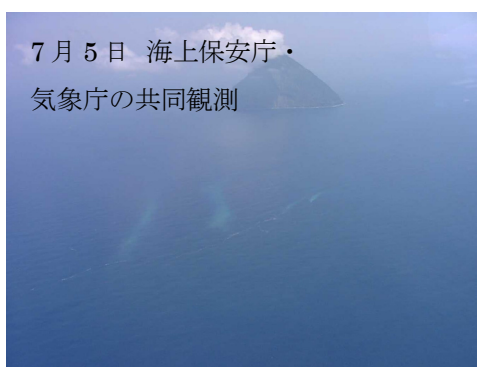
7 月 2 日 海上自衛隊提供



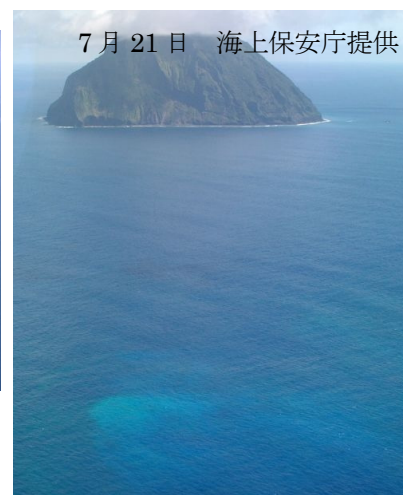
7 月 3 日 海上保安庁提供



7 月 4 日 海上保安庁提供



7 月 5 日 海上保安庁・
気象庁の共同観測



7 月 21 日 海上保安庁提供

図 1 福德岡ノ場 噴火および変色水の状況（後方の島は南硫黄島）。

上段左：7 月 2 日 福德岡ノ場から噴煙が上がる（北約 50km の硫黄島から撮影）

上段右：7 月 3 日 矢印地点から浮遊物・変色水がのびる（北東側上空から撮影）

下段左：7 月 4 日 下段中：7 月 5 日 下段右：7 月 21 日 変色水を確認（上空から撮影）

表 1 福徳岡ノ場 火山情報の発表状況(平成 17 年 7 月)

火 山 情 報 名	発表日時	概 要
火山観測情報第 1 号	3 日 19:30	小規模な海底噴火の発生を確認

○福徳岡ノ場の概要

福徳岡ノ場は、東京の南約 1,200km、南硫黄島の北東約 5 km にある海底火山で、1904～1905 年、1914 年に火山島“新硫黄島”を出没させる活動がありました。1986 年の噴火では長径 600m、高さ 15m の新島を生じましたが、噴火後の海食によって消滅しました。前回の噴火は 1992 年 11 月で、軽石の浮遊等が確認されました。

なお、この海域では変色水がしばしば確認されています。

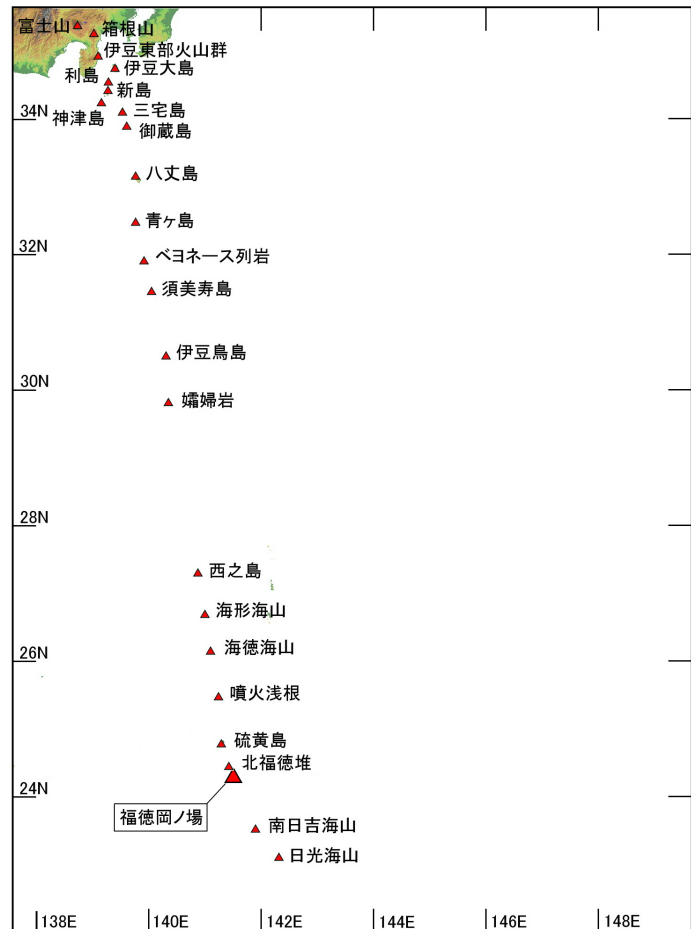


図 2 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場

表 2 過去の主な火山活動（日本活火山総覧第 3 版による）

年月日	現象	概要
1904～1905(明治 37～38) 年	海底噴火	11 月 14 日に爆発音、28 日に噴煙と水蒸気、12 月 5 日に新島生成を発見。その後の測量で新島は高さ 145m、周囲約 4.5km、ほぼ円形。1905 年 6 月 15 日には新島は高さ 2.5～3m に減少、やがて礁岩に変化。
1914(大正 3) 年 1 月	海底噴火	1 月 23 日に大噴煙、溶岩流出。1 月 25 日に新島出現(高さ 300m、周囲 11.8km)。新島は 12 月には各所で決壊、翌々年には消滅していた。
1973(昭和 48) 年 12 月 18～19 日	海底噴火	硫黄状のもの流出。
1974(昭和 49) 年 2 月 16 日	海底噴火	海水変色。
1986(昭和 61) 年 1 月 18 日	海底噴火	噴石丘出現。3 月 26 日に海面下消滅。
1992(平成 4) 年 11 月 10 日	海底噴火	軽石浮遊、変色水。11、12 月に変色水を認めた。